

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																													
YIC京都ビューティ専門学校		平成21年12月2日		村田 忠男		〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4100																																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																													
学校法人YIC学院		平成19年1月22日		井本 浩二		〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4100																																													
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																																											
衛生		衛生専門課程		ビューティスペシャリスト科		平成22年文部科学省 告示第152号		-																																											
学科の目的		良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる心豊かな美容業界のスペシャリストとして活躍できる人財を育成する(教育理念)。 具体的には 1. 自分を磨くとともに、まわりの人たちの心と身体を癒しながら美しく健やかな人を創り出すことに喜びを感じ、そのための正しい知識と高い倫理観を持った人材。 2. 外見の美しさだけではなく、健康、知性、感性、人間性、心、自信、教養、これら全てが、真の美しさを創り出す大切な要素であると考え、美容、エステ、メイク、ネイル、ブライダル等ビューティ分野全般の基本的知識・技術を持つとともに、それぞれの専門分野のプロフェッショナルとして必要な技術・知識を究めた人材。 3. 常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感を持った人材。 4. 人間的な魅力を備え、接客や対人コミュニケーションの場において、「おもてなしの心」で接することのできる人材。 5. 利他の精神で働くことに社会的意義を感じることでできる人材。 6. それぞれがエステ、メイク、ネイルといった分野のスペシャリストであるとともに、一人の人間をトータルにとらえ、総合的な美を演出できる人材。 7. 心身の健康もビューティの重要な分野であり、将来は医療と健康をつなぐ人材として、幅広い教養、社会人基礎力を備え、ビューティ業界の指導的立場やリーダーとなりうる人材。																																																	
認定年月日		平成26年3月31日																																																	
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技																																							
2年		昼間		62		54		-		84		-																																							
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		単位																																							
90人		76人		0人		3人		16人		19人																																									
学期制度		■前期: 4月1日 ~ 9月30日 ■後期: 10月1日 ~ 3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59) 単位: 90分×15週の座学(授業)または実習をもって1単位とする。ただし、校外学習などこれによりがたい場合は別途換算する。 ■評価の方法: 成績評価は、試験のほか、レポート作成、作品作成、実技テスト、資格試験合格、日常の学習態度など担当教員の指定する方法によって、総合的に評価します。なお、各科目の評価方法については、シラバスに記載しています。																																													
長期休み		■学年始: 4月1日 ~ 4月6日 ■夏季: 7月24日 ~ 8月31日 ■冬季: 12月23日 ~ 1月10日 ■学年末: 3月10日 ~ 3月31日		卒業・進級条件		卒業要件: ・共通: JNA日本ネイリスト検定3級 JMA日本メイクアップ技術検定3級 アロマセラピー検定2級 サービス接遇検定3級 ・共通エステティック分野選択者: 国際エステティック連盟(INFA)ポディバスポート試験 ・メイクアップアドバイザー分野選択者: JMA日本メイクアップ技術検定2級 メイクセラピー検定3級 ・ネイリスト分野選択者: JMA日本ネイリスト検定2級 JNAジェルネイル検定初級 単位: 90分×15週の座学(授業)または実習をもって1単位とする。ただし、校外学習などこれによりがたい場合は別途換算する。 卒業の要件: 必修科目90単位(600時間)及び選択必修科目1																																													
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、オープンキャンパス学生スタッフボランティア他 ■サークル活動: 0																																													
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) コスメ販売企業、ネイルサロン、エステサロン等 ■就職指導内容 キャリアサポート室は、学生の皆さんのこれらの支援を進めるための中心的な役割を担っています。学生の皆さんが、最適な就職ができるように個別相談、各種情報の提供、会社説明会やガイダンス・セミナー、個別面談、個別面接指導などの実施。 ■卒業者数 28 人 ■就職希望者数 27 人 ■就職者数 27 人 ■就職率 96.4 % ■卒業者に占める就職者の割合		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JMA日本メイクアップ技術検定試験1級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>JMA日本メイクアップ技術検定試験2級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>JMA日本メイクアップ技術検定試験3級</td> <td>③</td> <td>49人</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>メイクセラピストジャパンメイクセラピー検定2級</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>JNECネイリスト技能検定1級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>JNECネイリスト技能検定2級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>JNECネイリスト技能検定3級</td> <td>③</td> <td>47人</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>INFAポディバス</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>INFAフェイシャル試</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </tbody> </table>						資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JMA日本メイクアップ技術検定試験1級	③	13人	10人	JMA日本メイクアップ技術検定試験2級	③	16人	16人	JMA日本メイクアップ技術検定試験3級	③	49人	49人	メイクセラピストジャパンメイクセラピー検定2級	③	16人	14人	JNECネイリスト技能検定1級	③	4人	2人	JNECネイリスト技能検定2級	③	9人	9人	JNECネイリスト技能検定3級	③	47人	47人	INFAポディバス	③	8人	8人	INFAフェイシャル試	③	8人	8人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																
JMA日本メイクアップ技術検定試験1級	③	13人	10人																																																
JMA日本メイクアップ技術検定試験2級	③	16人	16人																																																
JMA日本メイクアップ技術検定試験3級	③	49人	49人																																																
メイクセラピストジャパンメイクセラピー検定2級	③	16人	14人																																																
JNECネイリスト技能検定1級	③	4人	2人																																																
JNECネイリスト技能検定2級	③	9人	9人																																																
JNECネイリスト技能検定3級	③	47人	47人																																																
INFAポディバス	③	8人	8人																																																
INFAフェイシャル試	③	8人	8人																																																

	96.4 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0
■その他 ・進学者数:	0人		
(令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			
中途退学の現状	■中途退学者 7 名 令和3年4月1日時点において、在学者78名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者71名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更(就職)、学習意欲低下、体調不良、持病の悪化、家庭環境の変化、金銭的理由、他	■中退率 15 %	
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0		評価結果を掲載したホームページURL 0
当該学科のホームページURL	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、そ

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより職業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。

・編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。

進歩している業界の知識・技術を取り入れ、教育課程を「生きた」ものにするために教育課程編成委員会を組織する。より業界のニーズに沿った人材育成に係わっていただき、PDCAのサイクルを回して、教育の硬直化を避け、就職率・定着率のアップを産・学・官・民協力の下、推進していくことが目的。

より実践的、業界事情にあった科目を展開するべく委員それぞれの立場や視点からの率直なご意見をいただきながら、教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム検討会議に報告するものとする。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。

・学校運営から独立した機関であり、理事会直轄の諮問機関とする。

・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。

教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。

会議の結果をカリキュラム検討会議に報告し、学科、コースごとに教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
西原 弘幸	京都府美容業生活衛生同業組合 教育委員	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
久保 智哉	株式会社ガモウ関西	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
伊佐治 勇樹	株式会社ORESS	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
川畑 勉	資生堂プロフェッショナル株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界企業
芦田 貴子	一般社団法人JMA	令和5年4月1日～令和7年3月31日	業界団体
岡澤 ひとみ	株式会社WEDDGE	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
三木 千恵子	株式会社ロイヤルホテル	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
村田 忠男	YIC京都ビューティ専門学校 校長	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年5月20日 15:30～17:00

第2回 令和4年11月中旬以降～予定

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

知識面においては、対面での接客のスキルであったりとか、オンライン接客とよりお客様に分かりやすく正しく伝えるためにしっかりと知識面の授業を取り入れなければならないところで実際に1年生の前期のメイクアップ基礎の授業で以前まではメイクアップ基礎の中で理論と実習をしており、その中であの実習の時間を多く取っていた。今年度に関しては、理論としっかりと実習という形で、科目を分けて目標を設定し直して授業を行う。

技術面に関しましてはと、メイクアップの基礎を習得、次のような企業ブランドにおいても対応できるメイクの技術応用力を身につけるためにメイク実習の増加や、メイクの住み分けとして、メイクアップをアドバイスする力と、お客様に寄り添ってモデルさんやお客様の成りたい印象を引き出して、そのオーダーに沿ったメイクをする力と、お客様に教える力というような形で、え、実習の時間を増やす。

社会人基礎力面におきましては硬筆書写について前回までは2年生の後期で科目を受講していたところ、1年生の前期に変更することで、就職活動の際の履歴書の書き方や、しっかりと文字があつ綺麗に書ける。そういうところを就職活動で強みになると思ひ変更しました。新しく2022年度接客マナー実習を取り入れました。そちらでは、身だしなみやより丁寧な言葉遣い、接客ができるように実習を取り入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

国家資格である美容師資格習得に必要な教育科目は美容師養成施設指定規則で定められており、資格取得のために全員が習得しなければならない基礎的・汎用的技術であり必須科目と位置付ける。一方、美容分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、選択必須科目および選択科目と位置付ける。

後者の科目については、地域社会で美容業界を主導する50社以上のサロンをネットワークサロンとして組織し、連携することにより、美容業界が求める知識・技能・実務を的確に反映した教育体制としている。ネットワークサロン以外の美容業界のみならず、ビューティ分野の企業、理美容組合、メイク、ネイル、ブライダル、アロマ、マナー等専門分野の学協会とも連携する。

連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、学協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師(担当者)、等については連携の協定書締結時に確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学内の授業・実習などで修得した知識や技術等を企業及び各種団体などの各施設や現場で利活用して実践力を養成しつつ、高い評価が得られる職業社会人として必要なスキルや多様な能力が求められる実態を学生本人が把握し、そのニーズを見極め自身の醸造と今後の学習において自己課題を設定する機会としている。

・企業等と協定書を締結し、連携授業として美容実習(カット基礎)や美容実習(カラー基礎)の授業や、校外(実務研修)でのインターンシップを行っている。学習内容、評価などは期初に当該企業等との打ち合わせにより決定したシラバスに沿って行っている。

・インターンシップは学校とインターン生受け入れ企業と個別に覚書を結び、学生のレポート⇒企業側のコメント⇒学校のコメント・評価⇒学生へのフィードバックにより学修成果を評価し、その結果を企業に報告することにより、科目の成果、改善・改革を図っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
イメージメイク	ベストマッチングに基づいた顔分析。曲線と直線のメイク、イメージマトリクスからの識別を含めた座学と実習	資生堂プロフェッショナル株式会社
撮影メイク	撮影メイクの技術・知識の習得	株式会社DEMOMODE
ネイルⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	ジェルネイル技能と知識の基礎を習得する。またJNECネイルリスト技能検定試験1級ジェルネイル上級を目指し即戦力となる技術を身につける	株式会社ガモウ関西
ネイル特論Ⅰ	サロンワークに通ずるネイルの知識・技術	株式会社ガモウ関西
ネイル特論Ⅱ	ネイル特論Ⅱの応用、サロンワークのケーススタディ	株式会社ガモウ関西

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を教え育てるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはYICグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 「INFA教員研修」		連携企業等: 一般社団法人JMA(日本メイクアップ技術検定協会)
期間: 令和4年8月		対象: 教員
内容: INFAボディ・フェイシャルパスポート指導		
研修名: 「JMA手技確認講習」		連携企業等: 一般社団法人JMA(日本メイクアップ技術検定協会)
期間: 令和4年8月29日(月)		対象: 教員
内容: 1部: JMA日本メイクアップ技術検定1級手技確認講習 2部: JMA日本メイクアップ技術検定試験2級・3級手技確認講習		
研修名: 0	0	連携企業等: 0
期間: 0	0	対象: 0
内容: 0		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 「学生とのコミュニケーション向上スキル」		連携企業等: キャリアコンサルタント 産業カウンセラー 村上恵子先生
期間: 令和5年8月22日(火)		対象: 教員
内容: Z世代の特徴とコミュニケーションの取り方		
研修名: 0	0	連携企業等: 0
期間: 0	0	対象: 0
内容: 0		
研修名: 0	0	連携企業等: 0
期間: 0	0	対象: 0
内容: 0		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 「JMA手技確認講習」		連携企業等: 一般社団法人JMA(日本メイクアップ技術検定協会)
期間: 令和5年8月25日(金)		対象: 教員
内容: 1部: JMA日本メイクアップ技術検定1級手技確認講習 2部: JMA日本メイクアップ技術検定試験2級・3級手技確認講習		
研修名: 0	0	連携企業等: 0
期間: 0	0	対象: 0
内容: 0		
研修名: 0	0	連携企業等: 0
期間: 0	0	対象: 0
内容: 0		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「かかわりづくりワークショップ」	連携企業等:	奈良教育大学教授 粕谷貴志先生
期間:	令和4年8月17日(水)	対象:	教員
内容	入学直後の学生間の人間関係の築き方、人との関わり方について		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、教育活動及び学校運営の状況についての自己点検評価の結果を踏まえた学校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2) 学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3) 教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4) 学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8) 財務	9 財務
(9) 法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10) 社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

4. 学習成果について

4-4退学率の低減が図られているかにおいて、前年度は退学者がかなり多くでた結果となった。退学理由の内訳は①「体調不良又は病気で学習が継続できない」が17%、②「勉強についていけない」が26%、③「職業に対する興味が無くなった」が50%あった。これについては2番、もしくは3番については入学当初から進研アドのアンケート調査を実施しており、基礎カリサーチの結果を上手く活用できずに対応ができていないことが反省点。

今後の改善方策

4-4において②③については入学時の進研アド基礎カリサーチによる学力測定と学びに対するモチベーションアンケートを実施しており、それらを考慮して退学者の早期発見に務めたい。

退学率の改善について、現行のQUアンケートとともに結果を関係部署と分析、共有をしていく。今期は入学時の基礎学力リサーチを活用しようとして早期に指導しようとしている。

集客するや全国で会社説明会するなど時間を取っている。そうしたところを本気でやらないと入学数が決まれば、今度は中身を詰めていく。結局、学生を毎年安定的に確保出来なければ、集めることができなければ、内容を深めることも、人数が少なくなればそこにかかる情熱、思いやモチベーションも下がってしまう。結果質を高めることもできないという悪循環に陥ってしまうので、まずは徹底的に集めることに取り組んで行かれると、人の確保ができて初めて次のところにつながる。一番大切なところだと思うのでそこを強化することをアドバイスとさせていただきます。

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://www.yic-kvoto-beautv.ac.jp/disclosure/>
公表時期: 令和4年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、教育活動及び学校運営の状況についての自己点検評価の結果を踏まえた学校の評価を行い、その結果を校

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1 教育理念・教育目標
(2)各学科等の教育	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3)教職員	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4)キャリア教育・実践的職業教育	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5)様々な教育活動・教育環境	5 学生支援
(6)学生の生活支援	6 教育環境
(7)学生納付金・修学支援	7 学生の受入れ募集
(8)学校の財務	9 財務
(9)学校評価	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10)国際連携の状況	10 社会貢献・地域貢献
(11)その他	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/disclosure/>
公表時期: 令和4年7月31日

授業科目等の概要

(衛生専門課程ビューティスペシャリスト科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		人体の構造及び機能	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を確認する 学習の仕方を学び活用する。適宜視覚教材を利用	1前	30	1	○			○		○		
2	○		皮膚科学	皮膚およびその附属器官の構造、皮膚の循環系と血管の解剖と生理、皮膚と附属器官の一般的生理機能、皮膚と附属器官の保健ならびに疾病の概要等について学習する。	1前	30	1	○			○		○		
3	○		化粧品化学	化粧品（化粧品）は、人の皮膚の保健・衛生および美容・美化を目的として用いられるものである。人間の美と健康に関わる職業人として、化粧品の科学的基礎知識を学ぶ。また顧客との良好な人間関係を築く上で必要な化粧品の最新の情勢についての知識を習得する。	2前	30	1	○			○		○		
4	○		色彩学	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。	1後	30	1	○			○			○	
5	○		ブライダル概論	現在の日本におけるブライダル事情の概要を知り、ブライダルとは何か？どんな意味・意義があるのか？そこで従事する人間としてのモラルなどを学ぶ。一般知識としてブライダルに関する基本的な事柄によって理解している事の目安としてプランナー検定3級問題の合格。ブライダル関連に興味を持ち意欲的に行動できるようになる。サービスマナーについても学習し日常生活の中で身に付けるように心がける。	1前	30	1	○			○		○		
6	○		メイクアップ基礎（理論）	JMA検定教科書に沿い、メイクアップ理論・スキンケア理論の習得	1前	30	1	○			○		○		
7	○		アロマテラピー基礎	授業は座学を中心とする。 理解を確認するために、適宜チェックテストを行い、知識を確実なものとするようにする。 また、理解しやすいよう、適宜視覚教材を利用する。	1後	60	2	○			○		○		
8	○		ネイル基礎	ネイル基礎知識・ネイルケア・カラーリング・チップラップ・検定アート 検定3級対策	1前	##	4			○	○		○		

9	○		メイクアップ基礎（実習）	JMA検定教科書に沿い、お客様にとって心地よいメイクの施し方を学習する。メイクの技術の他に、道具の扱い方・身だしなみ・声かけ等も習得し、メイクアップの楽しさを学ぶ。	1前	60	2			○	○	○		
10	○		ヘアアレンジ基礎	ワックス、コテの使い方、編み込み、スタイリングなどウィッグ使用の実技中心となる	1前	30	1			○	○	○		
11	○		着付け	着付を通して、和の心に親しみ、‘正しい姿勢とご挨拶’ ‘美しい所作を生む和服の着こなし’ ‘たおやかな立ち居振る舞いと心得’ 大人の女性として恥ずかしくない礼儀や作法を身につける。また、着物の取り扱いについても学ぶ	2後	60	2			○	○		○	
12	○		メイクセラピー基礎	座学、実技の授業 テキストの他、学習プリントで検定試験の出題ポイントの習得・テキストのまとめをしながら進める セラピーメイクの知識と技術を習得する	1前	30	1			○	○	○		
13	○		エステ基礎	授業は実技を中心とする。 上達度を確認するために、適宜チェックテストを行い、テクニックを確実なものとするようにする。	1前	90	3			○	○	○		
14		○	ビジネスと仕事の実践	授業は座学を中心とする。 社会人基礎力・セルフマネジメント力の向上を図るとともに、経営、マネジメントの視点を持つことで即戦力となる人材を育成する	2前	30	1	○			○	○		
15		○	サービス接遇	ブライダル業界で働くにあたり必要な心構えと接客力を身につける、サービス接遇を通し、理解を深める。	1前	30	1	○			○	○		
16		○	メイクアップI（理論）	座学中心の授業 メイクアップ、スキンケア、化粧品、皮膚、顔分析、メイクアップの修整方法などのメイクアップ知識の習得	1後	30	1	○		△	○	○		
17		○	メイクアップI（実習）	座学・実技中心の授業（講師デモンストレーション・学生実習） メイクアップの基礎知識・ベーシック～応用技術・アイテムの知識・人間性・マナー・感性を土台に、能力の向上を目指す。JMA検定を学びながら、基本に忠実な本物の技術、顧客や社会のために誠実な思いを持って提供し喜びをもたらす職業としてメイクアップに携わることの尊さや誇り、美しさを志向します。	1後	60	2			○	○	○		
18		○	メイクアップII	座学、講師デモンストレーション、相モデルを取り入れた実習を中心とする。技術力・接客力・知識力を高め、メイクアップの修整、イメージ応用まで習得する。 お客様にわかりやすく伝える表現力やアドバイス力を習得する	2前	##	4			○	○		○	

19	○	イメージメイク基礎	実技中心の授業（講師のデモスト、学生が実技を行う） メイクカルテを活用し、理解力を深める 実技チェックテストを行い、テクニックの習得状況を確認し、実技を確実に習得する。	1後	60	2			○	○			○	○
20	○	ブライタルメイク	実技中心の授業（講師のデモスト、学生が実技を行う） メイクカルテを活用し、理解力を深める 実技チェックテストを行い、テクニックの習得状況を確認し、実技を確実に習得する。	2前	60	2			○	○			○	
21	○	撮影メイク	座学、講師デモンストレーション、相モデルを取り入れた「聴く」「観る」「実際に行う」の3つのパターンで成り立つ知識とそれを使った技術を習得できるプログラム、ヘアメイク選手権にエントリーする作品作りを行う	2前	60	2			○	○			○	○
22	○	コスメティック販売実習	百貨店研修・メーカー研修での学習内容をいち早く習得し、即戦力となる人材育成、ビューティのプロを育てます	1後	60	2			○	○			○	
23	○	接客マナー実習（基礎）	社会人と接するための最低限のマナーの習得。接客マナーの基本を身に付け、電話対応・企業訪問マナーを身に付ける。	1後	30	1			○	○			○	
24	○	接客マナー実習（応用）	百貨店研修・新入社員研修などで行われている接客マナーの学習内容をいち早く習得し、即戦力となる人材育成、ビューティのプロを目指します	2前	30	1			○	○			○	
25	○	メイクセラピーⅠ	座学・実習・グループワークを取り入れた授業 化粧療法の領域における援助法の一つとして、心理的な援助活動に必要な「心理学」「コミュニケーション」メイクアップに必要な「メイク理論」「色彩学」を学びメイクセラピーの概念を総合的に習得する 適宜視覚教材を利用	1後	60	2	○		△	○			○	
26	○	メイクセラピーⅡ	座学・ワーク・実習を中心とした授業 メイクセラピーテキストの他、サブテキストを参考に実技演習をしながら理解を深める。 検定試験の出題ポイントの習得の他、授業の振り返りも丁寧に言い自分で考えて伝える力も育てる。 適宜視覚教材を使い、接客時に必要な信頼関係の築き方の実例を学ぶ。	2前	60	2	○		△	○			○	
27	○	解剖生理学Ⅰ	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を確認する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用	1後	60	2	○			○			○	

28	○	解剖生理学Ⅱ	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を確認する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用	2前	60	2	○			○		○		
29	○	メイクアップ特論Ⅰ	即戦力となるカウンセリング、アドバイス、メイク技術	2後	##	4	○			○				○
30	○	メイクアップ特論Ⅱ	メイクアップ特論Ⅰの応用、カウンセリングのケーススタディ	2後	60	2	○			○				○
31	○	ネイルⅠ	ネイル検定2級（ネイルケア・カラー・チップラップ・検定アート） アクリルベーシック（アクリル概論・スカルプ・チップオーバーレイ） ジェルベーシック1（ジェル概論・プレパレーション・フローター・オフ・ジェルアート基礎） ネイルアートベーシック（フラットアート・デザインアート・3Dアート）	1後	##	4			○	○				○ ○
32	○	ネイルⅡ	検定2級（ネイルケア・カラー・チップラップ・検定アート） アクリルベーシック（アクリル概論・スカルプ・チップオーバーレイ・3Dアート） ジェルベーシック1（ジェル概論・プレパレーション・フローター・オフ・ジェルアート基礎）	1後	##	4			○	○				○ ○
33	○	ネイルⅢ	検定2級（ネイルケア・カラー・チップラップ・検定アート） アクリルベーシック（アクリル概論・スカルプ・チップオーバーレイ・3Dアート） ジェルベーシック1（ジェル概論・プレパレーション・フローター・オフ・ジェルアート基礎）	1後	60	2			○	○				○ ○
34	○	ネイルⅣ	検定2級（ネイルケア・カラー・チップラップ・検定アート） アクリルベーシック（アクリル概論・スカルプ・チップオーバーレイ・3Dアート） ジェルベーシック1（ジェル概論・プレパレーション・フローター・オフ・ジェルアート基礎）	1後	60	2			○	○				○ ○
35	○	ネイルⅤ	ネイル総合（アクリル・ジェルネイル・ケアカラー・ネイルアート・フットケア） ネイル資格・試験の対策	2前	##	4			○	○				○ ○
36	○	ネイルⅥ	ネイル総合（アクリル・ジェルネイル・ケアカラー・ネイルアート・フットケア） ネイル資格・試験の対策	2前	##	4			○	○				○
37	○	ネイルⅦ	ネイル総合（アクリル・ジェルネイル・ケアカラー・ネイルアート・フットケア） ネイル資格・試験の対策	2前	60	2			○	○				○

38	○	ネイルⅧ	ネイル総合（アクリル・ジェルネイル・ケアカラー・ネイルアート・フットケア） ネイル資格・試験の対策	2 前	60	2			○	○			○	
39	○	ネイル特論Ⅰ	サロンワークに通ずるネイルの知識・技術	2 後	##	4	○		△	○			○	○
40	○	ネイル特論Ⅱ	ネイル特論Ⅱの応用、サロンワークのケーススタディ	2 後	60	2	○		△	○			○	○
41	○	解剖生理学Ⅰ	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を確認する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用	1 後	60	2	○			○			○	
42	○	解剖生理学Ⅱ	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を確認する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用	2 前	60	2	○			○			○	
43	○	解剖生理学Ⅲ （口述）	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を自己管理する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用	1 後	30	1	○			○			○	
44	○	エステ（ボディ）	実技中心の授業。 学習プリントで技術の習得状況、未習得状況を自己管理する。 適宜チェックテストを実施し、テクニックを確実にする	1 後	##	8				○	○		○	
45	○	エステ（フェイシャル）	・マッサージの効果・テクニックを習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で、必要なルール・マナー・守秘義務・清掃を習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で必要な時間管理能力を身につける ・INFA国際ライセンス フェイシャルパスポート国内卒業試験合格	2 前	##	8				○	○		○	
46	○	エステ特論Ⅰ	実技中心の授業、必要に応じて講義形式を取り入れる 必要に応じて視聴覚教材使用 適宜チェックテストを実施	2 後	##	4				○	○		○	
47	○	エステ特論Ⅱ	・実技中心の授業、必要に応じて講義形式を取り入れる ・必要に応じて視聴覚教材使用 ・適宜チェックテストを実施	2 後	60	2				○	○		○	

48	○	ヘアアレンジ 応用	座学、講師アセスメント、相セ ルを取り入れた、「聴く」「観る」「実 際に行う」の3つのパターンで成り立つ知 識とそれを使った技術を習得できるプログ ラム フォトコンテストにエントリーする 作品作り行うビューティスペシャリストと しての美容の知識、テクニックを実践しな がら創造力と感性を高め、クリエイティブ な作りを作る	2 前	30	1				○	○	○			
49	○	メイクアップ 応用	INFA国際試験フェイシャルのメイク アップの項目で70点以上を取得すること ができる	2 前	60	2				○	○	○			
50	○	パーツケア実 習Ⅰ	・実技中心の授業 必要に応じて講義形式 を取り入れる ・必要に応じて視覚教材を使用	2 前	30	1				○	○	○			
51	○	パーツケア実 習Ⅱ	WAX脱毛、ネイルケア ネイルカラーリ ング メイク等 パーツ部分を美しくする ための技術を身につける	2 後	30	1				○	○	○			
52	○	イメージメイ ク応用	フォトコンテストのテーマに合わせたメイ クを創造することができる イメージメイクで学んだ知識を活かし、技 術を行う事でメイク表現の違いを知る。 メイクの楽しさを他者に伝えることので きる応用テクニック、表現方法を学ぶ。 様々なヘア・メイク表現を習得し、現場 で活かせる応用技法を身に付ける。	2 前	30	1				○	○		○	○	
53	○	サービス接遇 特論	座学・ロールプレイングを取り入れた授業 正しい敬語美容業界で働くにあたり必要 な心構えと接客力を身につける、サービ ス接遇を通し、理解を深める。	1 後	30	1	○				○			○	
54	○	基本IT技術	① WindowsとWord2007の基本操作について ② Wordの機能についての理解と利用 ③ Excelの基本的な操作方法や表の作成・ 編集 ④ 関数についての理解とグラフの作成 ⑤ 文書校正機能やワークシートの操作に ついて	2 後	30	1	○				○			○	
55	○	キャリアデザ イン	就職活動のための、キャリアガイダンス 1. 自己分析 2. プレゼンテーション能力、コミュニケ ーション能力を身につける 3. 仕事を知る	1 後	30	1	○				○		○		
56	○	プレゼンテー ション	「仕事の実践」の知識を活かしながら、プ レゼンテーション能力の養成・向上を 目指して、プレゼンテーションの基本的 な知識を修得し、さまざまな場面で自 分の考えをしっかりと相手に伝える積 極的な意思表示ができるようになる。	2 後	30	1	○				○		○		
57	○	硬筆書写	ビューティ業界に必要な美しい手書き 文字を身に付け、お客様への手紙、商 談のメモ等、字で信頼して頂くため に、硬筆書写の基礎的な技術及び知 識をもって書くことが出来るように なる。また就職活動時に正しい字 で履歴書が書けるようになる。	1 前	30	1	○				○			○	

58			○	論理的思考力 基礎	日常生活に関する題材を取り上げ、現状認識、問題発見をつかさどる把握力、定量分析、定性分析に発展させる分析力、意思決定、情報を研ぎ澄ませる選択力、シュミレーション能力を磨くための予測力、プレゼンテーション能力を発揮できる表現力の基礎を学ぶ。	1 後	30	1	○				○			○	
59			○	ビジネス英語	サロンでの対応について色々な場面で会話を学ぶ。授業は簡単な会話を中心としビューティ分野に必要な表現も併せて学ぶ。	2 後	30	1	○				○				○
60			○	ビジネスマネ ジメント	管理職（マネジャー）は、企業と社員の結節点として、“経営ビジョンの浸透”や“事業戦略の策定・遂行”、“チームのモチベーションの向上”、“人材育成”などの多様かつ重要な役割を担っています。まさに企業の浮沈の鍵を握る要の存在です。この授業ではマネジメント知識を学び社会	2 後	30	1	○				○			○	
61			○	インターン シップⅠ	実際のサロン勤務を体験（研修）し、これを通して、専門知識を実社会においてどのように活かしていくべきか、今後の自分にとって何が必要かを考える能力を身に付けるとともに就職に繋げる。	2 前	30	1					○			○	
62			○	インターン シップⅡ	業界研究で得た知識をもとにインターンシップ依頼、インターンシップリテラシーを学び、事前準備学習を行う。インターンシップを通じて得た経験を体験報告をレポートにまとめ、報告書を作成する。	2 前	30	1					○			○	
63			○	サロン運営Ⅰ	現場実習・スチューデントサロンを計画し実施する	2 前	60	2					○			○	
64			○	サロン運営Ⅱ	現場実習・スチューデントサロンを計画し実施する	2 後	60	2					○			○	
65			○	サロン運営Ⅲ	現場実習・スチューデントサロンを計画し実施する	2 後	60	2					○			○	
66			○	イベントプロ デュース	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力を養う。	1 後	30	1					○			○	
67			○	企業研究	前半では、就職を希望する企業・サロンの調査法、インターンシップの依頼（電話・依頼文作成）、インターンシップに参加する前提として、インターンシップの目的、参加の心構え、ビジネスマナー講習などを中心に、事前準備学習を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書を作成する。交通費等の費用は原則自己負担であ	1 後	30	1	○					○			○

68		○	ボランティア活動	ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を講義する。ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。	2 後	60	2			○		○	○		
69		○	ソーシャルメディア活用概論	SNSの特長を理解してSNS運用の課題を明確にする。ソーシャル・メディアの必要性やSNSの活用ポイントを理解し、マーケティング、広報活動ができるようになる	2 後	30	1	○			○				○
合計					69	科目				138(4140)	単位	(単位時間)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・ 共通： JNA日本ネイリスト検定3級 JMA日本メイクアップ技		1学年の学期区分	2期
履修方法： 基本対面授業/一部オンライン形式及びオンデマンド形式にて実施		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。